

***** 2011.9.28 発行 *****

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

編集・発行：日本マラウイ協会

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 青年海外協力協会気付

Tel. 03-3447-2921 Fax 03-5798-4269

Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>

E-mail japan-malawi@auone.jp

【マラウイ共和国】

面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)

人口：1530 万人 (2009 年世界銀行)、首都：リロングウェ

独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語

政体：共和制、大統領：ピング・ワ・ムタリカ

為替レート：US\$1 = MK 163.450 (9月2日現在)

MK 1 = 0.46 円(9月2日現在)

【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。会員数：255人(9月1日現在)



マラウイ共和国 国旗



新駐日マラウイ大使挨拶



▲ 新駐日マラウイ大使

It is a great honour and privilege for me to make a statement in this magazine. I congratulate the management team for this initiative that showcase and promote friendship values between our beautiful countries Japan and Malawi.

Let me mention from the outset, that I am only three months in Japan as I arrived in May this year, but what I have observed and discovered is very vast.

First, is the culture and the humble life style of the Japanese people, both at work places and the community at large, which have made my family and I feel at home. Secondly, is the spirit of urgency in dealing with issues, but very systematic and the impressive lines of communication, have contributed to the achievement of my goals of fostering the relationship between our two peoples. It is a great honour for me to have presented my letters of credentials to His Majesty Emperor Akihito of Japan just a month after my arrival, confirming the great commitment by Japan and the excellent relations between our countries.

Since this magazine is written by ex-volunteers who have been to Malawi, let me take the opportunity just to highlight further the development programmes in the areas of trade and investment. Malawi is now developing fast. This is due to His Excellency Ngwazi Prof. Bingu wa Mutharika who has taken the development stand on another scale as he has prioritized some activities as "Priorities within Priorities".

The mining sector is one of the priorities that the government has embarked on as a driver to take Malawi into a dominant exporter from a pre-dominant importer. I am pleased to announce that

Malawi boasts a huge reserves of minerals ranging from Rare earths, Iron ore, Niobium, Gold, traces of Diamonds, Coal, Bauxite and Uranium among others. As I write, with the help of JOGMEC and JICA, mining activities have started in other areas such as uranium. Other minerals explorations are at advanced stage, and in others feasibility tests have been done to assess commercial viability for such ventures.

I don't need to over emphasize that minerals discovered in Malawi are on high demand in Japan being a technologically advanced country.

What is even more encouraging for investors is that the government has been reviewing policies in investment attraction to smoothen and lessen the hurdles of opening and establishing businesses in Malawi. These can be accessed from our Embassy right here in Tokyo.

On another note, the government realized that in such a paradigm shift, we need to develop the supporting infrastructure. Currently, there have been massive road construction projects that have seen some roads being upgraded to bitumen, some widen and in other areas, new roads to enable access of markets, transportation of vital commodities and boosting tourism.

The Nsanje World Inland Port connecting Malawi to the Indian ocean through our good neighbour Mozambique, has been constructed to reduce transport costs.

On the areas of communication availability, I am also proud to say that Malawi has made great strides in this area by having a growth in cell phone usage and network coverage for internet in almost all parts of the country.

There is much more that I could talk about, but the point is that the government of Malawi has created a lot of opportunities that weren't discovered in the past and therefore opportunities are there in all fields of Health, Agriculture, Technology, Finance, Industrial, Mining and Education just to mention a few.

Finally, let me take this opportunity to say how much we appreciate your selfless motives towards the people of Malawi and we are always amazed as I have earlier on said at the beginning of my statement. My appeal to you all, is that please come so that we can discuss and invest in this partnership. My door is open and I am here for you all. Have a blessed life.

Reuben Ngwenya
Ambassador of Malawi

ニュース

第29回通常総会と理事会開かれる

日本マラウイ協会の第29回通常総会が2011年5月14日(土) 15:00から、東京・渋谷のJICA地球ひろばセミナールームで開かれた。

第1号議案では平成22年度事業報告と決算報告および会計監査報告が次の4つの分野について行われた。

- (1) 広報活動：機関紙KWACHA第44号、第45号発行など
- (2) 文化・交流活動：国情セミナー・シマを食べる会開催など
- (3) 国際協力活動：マラウイウォームハートプロジェクト募集、マラウイ母の会への協力など
- (4) 組織活動：会員の入会勧誘活動、長期会費滞納者への納入督促、退会処理など

第2号議案の平成23年度事業計画と予算案では、前年度と同様に広報活動、文化・交流活動、国際協力活動、組織活動を中心に活動を展開していくことが示された。広報活動では、東日本大震災の影響で「協隊まつり」が中止になったが「グローバルフェスタ Japan 2011」には出展予定であること、文化活動には2000年に発行したチェワ語辞典改訂統合版の再訂版発行に向けての継続活動が盛り込まれた。

第3号議案の役員改選に関する件では、新副会長として野呂元良氏(初代 在マラウイ日本大使)の就任と、本作芳英理事の退任が諮られた。

第1～3号議案はそれぞれ質疑応答の後、議長が一同に諮り、満場一致で承認された。



▲ 審議の様子

一方、7月16日(土) 13:45からは同じくJICA地球ひろばセミナールームにて理事会が開かれ、今年度第1四半期の活動報告が行われた。

＜日本マラウイ協会役員一覧＞

役職	氏名	経歴 / マラウイ派遣年等
会長	数原 孝憲	元青年海外協力隊事務局長 元アイルランド大使
副会長	野呂 元良	前マラウイ大使
専務理事	貝塚 光宗	青年海外協力協会理事長
理事	長沼 秀明	アフリカ開発協会事務局長
	保阪 努	青年海外協力協会常務理事
	姫野 靖征	青年海外協力隊技術顧問
	山村 俊之	青年海外協力協会参与
	小松 健大	S47-1 派遣
	殿村 孝	S47-1 派遣
	中小原 淳	S49-2 派遣
	藤村 俊作	S50-2 後期派遣
	鶴田 伸介	S51-1 前期派遣
	吉田 均	S52-1 後期派遣
	上田 秀篤	S53-2 後期派遣
	佐藤 賢三	S53-2 後期派遣
	郡 昭治	S55-2 派遣
	室伏 春彦	S58-3 派遣
	河野 進	S63-1 派遣
	松平 隆一	S63-3 派遣
	中川 総	H3-3 派遣
監事	竹内 明久	S51-2 後期派遣
	飯島ともこ	H14-3 派遣

の40周年記念式典が開催された。式典にはムタリカ大統領、大統領夫人、寒川 在マラウイ日本大使をはじめ、マラウイ政府省庁、国際機関、ボランティア配属先、全ボランティアそしてJICA関係者等約400名が出席した。式典では、大統領、大使の祝辞、JICAマラウイ事務所長の挨拶に続き、マラウイボランティア事業の歴史紹介、OVおよびカウンターパートからのビデオメッセージ紹介、ボランティア活動報告、コンソールホームズ(隊員配属先)の子供たちによる踊り、日本の武道(空手、剣道)が紹介された。なお、式典には多くの関係者が出席したこと及びTV中継されたことで、JICAボランティア事業広報の良い機会を得た。



▲ 記念式典でムタリカ大統領と

記念式典に先立ち、主要2紙(デイリータイムズとネイション)に"CELEBRATING JAPANESE VOLUNTEERS PARTNERSHIP WITH MALAWI FOR 40 YEARS"と題した特集ページが折り込まれた。これには、ボランティア事業及び我が国ODAのPR記事、ボランティア事業の歴史、大使等のメッセージ等が掲載された。

また、マラウイ大統領や当会会長の祝辞が掲載された40周年記念パンフレットも発行され、上記の記念式典でも配布された。記念品としてはチテンジおよびTシャツを作成し関係者に配布して40周年のPRを行った。

関連イベントとして北部のMzimbaで日本祭りが7月30日に行われ、協力隊員が相撲、盆踊り、浴衣の試着など日本文化を紹介すると共に、東日本大震災による被災の様相も写真で説明された。同様のイベントが5月に南部ブランタイヤでも行われた。



▲ 北部Mzimbaで行われた日本祭りの1コマ

式が行われた(2面記事参照)。

国情セミナーは午後3時から、駐日マラウイ国大使 H.E. Brigadier R. Ngwenyaが約45分間にわたって、最近のマラウイ国内情勢や日本との関係について講演と質疑応答を行った(要旨は次記事参照)。



▲ 講演するNgwenya大使

国情セミナーの後、マラウイ政府感謝状授与式をはさみ、午後4時15分からは玄関前の物故隊員慰霊碑前に集まり、Ngwenya大使と野呂副会長が献花した後、全員で1分間の黙祷を行った。



▲ 慰霊碑前で

その後、会場を1階のレストラン「カフェ・フロンティア」へ移し「シマを食べる会」を行った。まずテーブルによるマラウイ警察音楽隊のマラウイ国歌演奏の後、野呂副会長の独立47周年への祝辞、Ngwenya大使の答辞、Karonga書記官による大使館職員と職員家族の紹介が行われ、Mapundula書記官の乾杯で会は始まった。



▲ お開きの前の記念写真

大使・大使館職員・家族・OB/OGら80名を超える参加者は、シマを食しながら独立記念日を祝い、懇親を深めた。また、会の後半では、シマの粉や民芸品などが当たるお楽しみ抽選会が行われ、当選者は歓喜に沸いた。

国情セミナー要旨

- 日時：2011年7月16日(土) 15:00～15:45
- 場所：JICA地球ひろば セミナールーム202
- 講師：駐日マラウイ国大使
H. E. Brigadier R. Ngwenya

こんにちは。本日は友情を交換する日です。私は(2011年5月18日来日し)日本語を習い始めていますが、まだできないので、英語で話させていただきます。日本マラウイ協会の野呂元良副会長をはじめ日本の方々、ご参集くださりありがとうございます。お招きくださったことに感謝申し上げます。本日は、マラウイ独立47周年のお祝い、マラウイの協力隊員への感謝状授与に加えて、私

ニュース マラウイ政府感謝状授与式

青年海外協力隊のマラウイ派遣者に対するマラウイ政府感謝状授与式が2011年7月16日(土) 15:45から東京・広尾のJICA地球ひろばで、駐日マラウイ国大使 H.E. Brigadier R. Ngwenyaご臨席のもと行われた。これは2008年12月15日に昭和46年度1次隊(初代)隊員に対して行われた授与式に続くもの。今回は昭和46年度2次隊から昭和56年度2次隊派遣の364名を対象として行われた。

感謝状はマラウイ政府からJICA青年海外協力隊事務局に一括して渡されており、当日は同事務局長の伊藤隆文氏から対象者を代表して村上 博OB(昭和48年度1次隊後期組)に授与された。



▲ 感謝状を授与される村上OB(右)

村上OBは謝辞の中で、隊員時代の思い出とその後のマラウイとの関わりを述べ、活動35年後の思いがけない感謝状授与に喜びを語った。

ニュース 青年海外協力隊マラウイ派遣40周年記念事業

今年マラウイに青年海外協力隊が初めて派遣されて40周年にあたる。これを記念してJICAマラウイ事務所による様々な記念事業が行われている。これらは日本側、マラウイ側双方がJICAボランティア事業の理解を深め、今後のJICAボランティア事業発展に役立て、また、JICAボランティア事業がマラウイの人づくりや国際交流に貢献してきたことをマラウイの人々および関係機関にアピールするものである。

8月24日には、大統領官邸に於いて大統領主催

ニュース マラウイ国内情勢

各種報道を総合すると、2011年7月20、21日の両日、リロングウェ、ブランタイヤ、ムズズ、カロングガで反体制派によるデモとそれに乘じた暴動があり、それぞれ7人、2人、9人、1人の死者がでた。同派は政府に対し20日に15ページにおよぶ嘆願書を提出している。

イベント 国情セミナーとシマを食べる会

日本マラウイ協会は2011年7月16日(土)、東京・広尾のJICA地球ひろばにてマラウイ独立47周年と青年海外協力隊マラウイ派遣40周年を記念して、国情セミナーとシマを食べる会を開催した。また、それらの間にマラウイ政府感謝状授与

の歓迎も兼ねた会だそうです。日本人とマラウイ人が集えることをうれしく思います。

マラウイにおいて日本人の働きはとても役にたっています。その働きは村落部にも及んでおり、とくに貧富の格差の縮小に役立っています。私は日本に来て2か月になります。日本を見ると、日本人がマラウイで活動することは大変なことだろうと改めて思います。今日のこのセミナーやマラウイ紹介のイベントをはじめとする日本マラウイ協会の日本での活動にも感謝申し上げます。

本題に入る前に、東日本大震災で犠牲になられた方々へのマラウイ大統領からの哀悼の言葉をお伝えいたします。「忘れがたい大震災の被害に心からお悔やみ申し上げるとともに、日本人が勤勉さと団結によって復興を成しとげ、さらなる繁栄を実現することを確信しています」との言葉をお受けください。

いくつかの分野に絞って昨年の国情セミナー以降の動きを簡単に紹介いたします。私の言いたいことのひとつは、マラウイが最適な投資の対象国だということです。今マラウイは急速に発展する軌道に乗っており、貿易、投資をはじめ多くの活動が展開されています。その背景のひとつは政治的な安定です。暴力はあまりありません。民主主義が確立しており14を超える数の政党があります。今後ともマラウイは、良い統治、法による統治、言論の自由を継続します。現在の与党は民主進歩党(Democratic Progressive Party (DPP))で、大統領の賢明な政策を維持しており発展は加速しています。経済成長率は約7%であり、サブサハラアフリカの平均である5.5%を上回っています。この急速な発展は4年前からのものです。インフレ率は過去の13%から7%に低下し、さらに下がる傾向にあります。現在、輸出促進のためにも投資を促進しています。その理由は、マラウイには元々多くの輸入に依存しているという問題があり、その対応として輸出を拡大しようということです。今マラウイは年間約3,000台の自動車を輸入しており、道路は混雑しています。とくに都市部の道路が混雑しており、道路やその他の基盤施設の事業が進んでいます。

分野別にみると、農業では主食のとうもろこしが自給されているだけでなく輸出されています。これは食糧補助政策によって生産が拡大したことによります。この政策は効果的であったため他のアフリカ諸国も同様な食糧補助プログラムを取り入れています。十分な食糧があつて初めて国は発展することができます。今マラウイは食糧補助の考え方を輸出しています。灌漑(かんがい)の分野では日本の支援を得ています。河川や湖から20kmまでの地帯に灌漑を整備して食糧の増産を進めています。

技術移転や教育の分野でも日本の支援に感謝いたします。教育はマラウイの優先分野であり教師隊員が活躍している分野です。日本は学校の建設でも支援しています。今、新たに5大学を建設しつつあり、ひとつの大学は今年開校です。学生数が増えるとともに科学分野をはじめ教育分野が多様化されつつあり、もっと多くのボランティアを必要としています。

交通・基盤施設の分野では内陸港の事業があります。これは最新の内陸港を建設するもので輸出の促進や輸入費用の削減に役立つものです。ンサンジェ(Nsanje)内陸港をモザンビークさらには

タンザニアやコンゴなどにも通じる地域回廊の拠点とするもので、こうした地域回廊の開発でも日本の支援に感謝いたします。都市交通の分野ではブラントヤア(Blantyre)の道路整備の第1段階の事業が完成し、今は第2段階の事業が進んでいます。

このようにマラウイではあらゆる分野で日本が活躍しています。先日、マラウイ放送(MBC)の取材チームが来日し日本を取材しました。昨日、放映されたその番組をマラウイの人々は大いに興味を持って視聴したようです。

モザンビーク経由でインド洋に通じるナカラ(Nacala)回廊の鉄道建設にも日本は協力しています。これは紅茶やコーヒーの輸出にも役立つものです。こうした基盤施設がなければマラウイ以外の国の産品が好まれることになるかもしれませんが、今ではこのように輸送費用は減少されつつあります。国際空港の修復も日本の支援によるものです。安全が確保されていますので安心してマラウイを訪問してください。

村落地域の総合開発も優先分野であり、市場(いちば)、給水、電化、衛生施設などを整備しつつあります。ムワンザ(Mwanza)、ネノ(Neno)、ムチンジ(Mchinji)などで進めています。これらはすべて重要な地区であり、日本の支援で整備されています。感染症の分野では、マラリアの減少が進んでいます。日本からは蚊帳の提供などを受けています。電力網の無い村落部では太陽発電の整備も進められています。

青年育成についても政府は明確な政策を持っており、青年の自立のために、機材支援、訓練、融資などを行っています。

エネルギーの分野では、石油、ガスなど多様な資源の探査を進めています。マラウイは大地溝帯(Great Rift Valley)にあり、希土類の探査も行っています。この分野でも技術、機器などで協力が重要です。

紅茶やその他の分野での事業や貿易に加えて情報通信技術も促進しています。マラウイも電子政府やeラーニングを進めており、いっそうの支援を必要としています。こうした分野をどのようにして改善するかが問われています。また同時に日本がマラウイから利益を得ることも進めなければいけません。そうすることによって双方向の協力になります。

マラウイの宿泊施設は、星による段階付けによって、改善がみられると同時に料金が下がつつあり、快適に過ごすことができます。観光資源の整備も重要です。観光名所としては、すばらしい国会の建物もあげられます。

以上で簡単な紹介を終わります。

質問：マラウイの成長率は7%であり周辺諸国と比べて高いということですが、その理由はなんですか。

回答：政治的に安定している点、優先課題の中



▲講演を聴く参加者

の優先課題に注目するといった賢明な政策がとられている点、大量の食糧を輸入していた以前と異なり食糧が十分に確保されている点の3点でしょう。今では食糧輸入のための歳出が軽減されています。大統領は戦略的な計画を立案し実行しており、開発計画・協力省(Ministry of Development Planning and Cooperation)の強化も考えています。この点でも近々日本の支援を受けることを期待しています。また、保健分野でエイズなどの感染症に対応していることもあげられるでしょう。マラウイは感染症の予防に熱心に取り組んでいます。

質問：ンサンジェ(Nsanje)内陸港はモザンビークのベイラ(Beira)につながるものであり重要な事業だと思いますが、ザンベジ川に関してマラウイとモザンビークの間に問題があります。その解決または示唆をお話してください。

回答：ンサンジェ(Nsanje)内陸港は物資の輸送にとって重要です。事業は開始されましたが運用は始まっていません。本件には複数の国がかかわっており、シレ川に関して、世界銀行などを含むマラウイ以外の実現可能性調査は完了していません。ザンビアやジンバブエも関与しています。実現可能性調査は時間のかかるものです。運用はしているが完成はしていないとも言えます。

質問：マラウイへの協力隊員が多い理由のひとつとして、周辺国と異なりマラウイには暴力的対立が無いということがあげられると思います。その理由を教えてください。

回答：それはむずかしい質問です。マラウイには24以上の民族がいます。ひとつの理由は、マラウイ人はいつも自分たちはひとつの国だと教えられてきたことでしょう。また、結束の力のひとつはチェワ語というひとつの国語を持っていることです。さらに、民族の豊かな文化を育てるという政府の方針もあげられます。それぞれの民族の文化が奨励されており、自由にそれぞれの文化的活動が行われています。

ありがとうございました。

投稿 帰国して思うこと

平成21年度1次隊 村落開発普及員
坂野 太郎

長年住み慣れた実家の自分の部屋。いつものように朝起きて、ふと思った。昨日までの2年間は夢だったのか？

村落開発普及員、アジア赴任希望として青年海外協力隊に応募した僕に「マラウイへ行きませんか？」と電話があったのは、忘れもしない

2008年12月上旬の頃だった。思わず「それどこですか?」と聞き返したのほっきりと覚えている。え? アフリカ? なんぞ? あげくの果てに、要請を見れば全く未知の世界であった「養蜂」…

何はともあれ、これはチャンスだ。そう思って「行きます!」と答えてからが怒涛の展開だった。あわてて養蜂関係の本を集めて勉強し、仕事を辞め、訓練に参加し、あれよあれよという間に派遣。いざ現場に降り立って来て、改めて驚いた。勉強してきたことと全然違う!

そんな戸惑いの中で始まった生活だったが、恐ろしいくらいに肌にあった。マラウイ南部、モザンビークとの国境近くにある田舎町、ムワンザ。蜜柑が美味しいと評判のこの地で、私は養蜂ビジネスの支援を活動の中心に据え、寝ても覚めてもミツバチと、蜂蜜と、頭の中でいつもぶんぶん羽音をたてていた。やる気のある同僚に恵まれ、積極的な養蜂農家グループの方々に救われながらの2年間。皆の努力が実ったのか、近隣の街から注文が入り始めた時のことをよく覚えている。「太

郎! 小売店のオーナーから電話があったぞ!」と嬉しそうに話す同僚は、まるで子供のような笑顔を浮かべていた。

ハチミツ酒を試作したばかりに、試飲しようと毎日「お酒ないの?」とやってくる農業開発事務所仲間たち。週末、自宅で新商品の試作と趣味をかねたお菓子作りをしているとやってくる近所の子供たち。隊員同士やNGOとの雑談は、幾度も活動の突破口に変化した。

そして、気がつけば帰国まであとわずかに迫



▲ 任地引き上げの日と同僚や地元の人たちと

ていた。帰りに帰らない、何ぞそう思ったことだろう。もうすぐハチミツの収穫シーズンなんだ。これを逃したら、ビジネス指導を実践で出来ない。そう感じたこともあったが、結局、私は日本に戻ってきた。

帰国して1週間ぐらい経った頃だっただろう。私は同僚に電話をしてみた。「太郎! もすごい量のハチミツが取れたよ! 品質いいし、あとはどンドン売ってさ!」と嬉しそうに電話の向こうから聞こえてきた。ああ、大丈夫だ。きっと、彼らはうまくやってくれる。

様々な花の蜜が混じり、驚くほど濃厚なマラウイのハチミツ。皆さんもいかがですか?

※マラウイハニーのお求めは、下記にご連絡下さい。
合資会社 オフィス五タラント
フリーコール 0120-988-510
携帯電話から 045-832-9718
HP <http://www.malawi.jp/>

最近のマラウイ関係テレビ/ラジオ番組/記事

(1) 2011.5.29 21:00~21:50 NHK総合テレビ

NHKスペシャル ホットスポット
最後の楽園 第5回「東アフリカ」
(タナガニーカ湖とマラウイ湖の紹介)

(2) 2011.7.22 NHK総合テレビ 正午のニュース
(1分半) マラウイでデモ

(3) 2011.5.21 毎日小学生新聞 4面

近くの子ども、遠くの子ども

(4) 2011.7.30 毎日小学生新聞 4面

近くの子ども、遠くの子ども

(5) 2011.8.5 19:57~22:52 フジテレビ系列

(一部約30分) その顔が見てみたい

「顔文化交流: マラウイ編」

(6) 2011.8.11 21:00~22:24 テレビ東京系列

和風総本家「日本という名の惑星」

日本マラウイ協会 2011年3月~2011年8月 主な活動内容

(1) 2011.3.23	3月例会、KWACHA第45号発行	(5) 2011.6.22	6月定例会
(2) 2011.4.20	4月定例会	(6) 2011.7.16	理事会、国情セミナー、マラウイ政府感謝状授与式、シマを食べる会(2-3面記事参照)
(3) 2011.5.14	第29回通常総会(1-2面記事参照)	(7) 2011.7.27	7月定例会
(4) 2011.5.25	5月定例会	(8) 2011.8.24	8月定例会



日本マラウイ協会情報



■ KWACHAバックナンバー

当会は2011年2月26日に設立28周年を迎えましたが、設立時の機関紙KWACHA第1号から第46号(今号)までの全バックナンバーをPDFファイル化し、当会ホームページへ掲載しています。是非ご覧下さい。<http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>から「日本語」を選択、左端のメニューから「機関紙KWACHA」をクリックすると、右ページに号数一覧が出てきますので、希望の号数をクリックしてください。

■ インターネットでラジオ番組

インターネットでマラウイのラジオ番組を聞くことができます。ZODIAK ONLINEというサイト

<http://www.zodiakmalawi.com>

で画面右上の「LISTEN LIVE」と書かれたボタンをクリックするとチェロワ語のトークやマラウイの音楽が流れてきます。このラジオ局はリロングウェで95.1MHzで放送しているZodiak Broadcasting StationというFM局。マイクソフトのSilverlightというソフトのインストールが必要ですが、入ってなければダウンロードを促す画面が出てきます。また、画面の左側ではマラウイのニュースも読めます。

■ 日本マラウイ協会の刊行物

(1) マラウイ旅行ガイド 新訂第2版 (97年7月発行)「アフリカの暖かき心、湖とサバンナの大地へ」B5版108ページ 1部 1,200円(送料210円)

(2) 国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第2版(94年7月発行)A4版40ページ 1部 1,000円(送料210円)

送料は「ゆうメール(旧冊子小包郵便物)」扱いで表示しています。上記2種類を1冊づつご注文の場合は次のとおりです。

(1)+(2) = 290円

購入ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の銀行口座宛に、代金および送料をお送りください。

●送金される場合は、事前に必ず注文内容(希望する「刊行物名」、「部数」、「発送先」、「申込者の氏名、電話番号」)をメールまたはFAXでご連絡ください。

■ ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、下記当協会宛へご遠慮なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

■ 日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、原則毎月第3水曜日18:30~に、東京都内(通常はJICA広尾地球ひろば 会議室)で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは当協会までお問い合わせください。

■ 日本マラウイ協会 入会方法等

入会申込書を当会ホームページから(<http://www.h4.dion.ne.jp/~malawi/application.doc>)ダウンロードし、各項記入の上、E-mail添付で当会へお送り下さい。E-mailで入会希望の旨を連絡くださっても構いません。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合1,000円+3,000円=4,000円)を下記のいずれかの銀行口座へお送りください。また、継続会員の方の年会費(個人正会員の場合3,000円)は、E-mailまたはFAXでご連絡の上、お送りください。

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24

青年海外協力協会気付 日本マラウイ協会

TEL: 03-3447-2921 FAX: 03-5798-4269

E-mail: japan-malawi@auone.jp

(1)三菱東京UFJ銀行 東恵比寿支店 普通口座255739

口座名義: 日本マラウイ協会事務局 貝塚光宗

(2)ゆうちょ銀行 〇一九店(ゼロイチキユウ店)

当座預金口座 0013125

口座名義: 日本マラウイ協会

(ゆうちょ銀行から送金する場合は、口座番号: 00190-7-13125)